

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193200094		
法人名	医療法人社団 三愛会		
事業所名	グループホーム「里の家」2号館 いぐきユニット		
所在地	名寄市大通北5丁目4番地		
自己評価作成日	平成28年8月2日	評価結果市町村受理日	平成 28年10月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193200094-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193200094-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成28年9月6日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

名寄市は四季がはっきりした地域で、季節に合わせた催しなどで外出・外食なども取り入れ職員、入居者さまと一緒に楽しんでいます。近くにはコンビニや公園もあり買い物や散歩など日常的に出かけ地域資源を活用させていただいています。開設から5年目を迎え職員も入居者さまと一緒にということが自然に行えるようになり、家事作業や活動など一人ひとりがやりたいことが出来る環境作りにも力を入れています。日々、理念に基づいたケアの実践を目指している所ですが入居者さま・家族とのコミュニケーションを大切にしてきました。気兼ねなく自然に家族も来訪されていると感じ、入居者さまにとって「我が家」になればと目指している所です。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、グリーンベルトのある幹線道路に面した静かな住宅街にあり、近くにはコンビニ、公園などがあり環境に恵まれている。木造平屋建て左右同型のユニットは、一体的な居間・食堂、娯楽談話スペースがあり、明るくゆったりとして、季節に合わせて利用者と一緒に作った折り紙の作品などが飾られ家庭的な雰囲気の中で、利用者が「安心」して、自由に生活できるよう支援している。利用者は毎日公園まで散歩に出かけ地域住民と挨拶・会話を交し、町内会の忘年会、地域の夏祭りなどに参加して、地域住民と交流し、事業所の行事には、地域住民が参加して相互に交流している。又、看護学生の実習を受け入れて地域に貢献している。職員は優しく明るく、笑顔で、利用者自身が出来ることは無理せずに任せ、やりがいを見出すよう支援をしたり、レクリエーションを兼ねた運動(体操・ゲーム・早口言葉)で、リハビリを取り入れ、体調が悪くならないよう気をつけている。利用者はテレビを見たり、会話をするなど思い思いに穏やかにゆったりと過ごしている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中でも特に「安心」につながる係わり心がけてきた。日々、積み重ねの中でケアプランと関連して実践につながるように努めている。	「安心して、自由に生活できる家」、「生きがいをもって、地域の中で楽しく生活できる家」、「心豊かに、自分らしく生活できる家」を事業所理念とし、各ユニットに掲示し、全体会議で再確認して職員で共有し日々のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は町内会に加入していて、町内会の催しに参加したり、近隣の方に畑で採れた野菜の差し入れをいただいたり、年々交流の機会は増えている。	町内会に加入し地域の一員として、夏祭り、忘年会などの地域行事に参加し、事業所の焼肉パーティーに地域住民を招いて交流している。又、毎日公園まで散歩に出かけ地域住民と挨拶・会話を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を活用したり、看護学生実習受け入れの中で当事業所の出来る範囲で発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し本人・家族も出席してもらい意見交換の場として活用しサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、利用者、家族、市職員、地域包括センター職員、地域住民(町内会長、福祉部長、民生委員、相談役)などが出席して、入居状況、利用者の生活状況などの報告を行い、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。避難訓練にも参加し協力関係を構築している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員とは相談しやすい雰囲気と環境があり、直接出向き手続きや相談をしている。また、事業所運営やサービスに係る疑問等にもすぐに対応と回答をいただいている。	行政担当者とは、書類提出などで定期的に訪問し、運営状況、利用者の状況などを報告し、意見交換、情報を得ている。又、運営推進会議出席時にも情報交換、指導を得て協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に一度、内部研修でケアの振り返りをして確認をしている。拘束につながらないようケアの方法や係わり方など職員は理解しながら取り組んでいる。	拘束となる行為と弊害は、法人内研修、内部研修などで話し合い情報を共有し、拘束をしないケアに努めている。防犯上夜間のみ玄関は施錠している。外出行動についても利用者に危険が起らないよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束排除と合わせて年に一度は内部研修で確認する機会を持っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体では学ぶ機会は持っていないが外部研修で学んでいる職員もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談時には当事業所について説明し、入居時にも十分な説明をし同意をいただいた上で契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランを通し3か月に一度、家族から意見や要望を伺い反映できるように努めている。来訪時にもコミュニケーションを図り、細かな内容でも申し送りや連絡ノートを使い共有できるように努めている。	利用者の意見、要望は日常の会話などから意向の把握に努め、家族には「いぶき通信」と共に利用者の最近の様子を知らせ、面会時、ケアプラン作成時には利用者の様子を伝え、来訪時、運営推進会議参加時に意見、要望を聞いて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は全体、ユニット、個別単位で状況に応じ話し合いの場を持つように努めている。職員からの提案があれば出来る限り尊重しながら反映できるよう努めている。	日常業務や個別面談等で意見や要望を聞いて、会議で協議・検討して運営に反映させている。ベットの手すりの向きなど利用者の安全に関する意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は年に一度、人事考課により個々の勤務状況や実績を把握して、個人目標を基に面接をして向上できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の機会を持ち外部研修でも内容と経験年数を照らし合わせ受講する機会を持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内での研修では年に数回だが同業者との交流や情報交換ができる機会がある。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報収集し、特に環境の変化やその時「困っていること」に耳を傾けるよう心掛け少しでも安心につながるような係わりを持っている。		

グループホーム「里の家」2号館 いぶきユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、入居後も家族とのコミュニケーションを多く持ち、時には電話で様子を報告することもあり少しでも安心できるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの情報の中で受診や支援等についても柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを引き出し食事作りや活動を共に行って行く中で徐々に関係は築けてきている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その時の状況や場合によっては家族にも相談や協力をお願いし本人を支える支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の友人や知人なども来訪される機会を持っていて、家族とは外出・外泊がいつでもできる環境にある。	日々の会話や家族の情報などから利用者の生活歴を把握し、馴染みの人や場所を把握するよう努めている。知人・友人が来訪した時は、ゆっくり寛げるよう支援している。買物、床屋、図書館、墓参りなど馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は自然の流れで皆さん居間で過ごされることが多く、入居者同士関わり合っているが時々ぶつかることもあるので、職員が介入し孤立しないよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の支援は行っていないが、相談があれば対応していきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で汲み取り、意向に沿えるようカンファレンスなどで検討している。	日常の会話、会話出来ない人には表情、家族の情報などから思いや意向の把握に努め、把握した希望、意向をセンター方式のノートに記録し、日々のミーティングで共有し希望や意向に添うよう支援している。	

グループホーム「里の家」2号館 いぶきユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・家族からの情報収集を基に把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の係わりの中で変化等の気づきを記録・申し送りなどで把握に努め、出来ることを引き出せるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでは本人・家族は参加していませんが3か月に一度はアセスメントして、日頃のコミュニケーションで意見や要望を汲み取った中でケアプランへ反映できるよう努めている。	利用者、家族の意向を反映させ、ユニット会議で意見交換し、3ヶ月毎に現状に即した介護計画を作成し、家族の確認印を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践については記録に残せている。気づきや工夫などの記録も残せるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応じ受診やリハビリ通院の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日中の散歩や美容院の利用、市のイベントなどの季節ごとの行事に出かけるなど楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する医療機関や医師への受診を支援している。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。受診時は職員が付き添うことを基本とし、変化があれば家族に報告している。法人運営の連携医療機関から看護師が週1回来訪し、利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の中で週に一回、看護師訪問があり一週間毎に体調について記載した用紙と報告をし、看護師からも意見やアドバイスをもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、出来る限り病院から情報をもらえるよう努め関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で家族と話し合い、グループホームのできることを共有し出来る限りの支援をしている。	契約時に重要事項説明書に記載の「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき、重度化した状態・終末期の判断などについて利用者、家族に説明し理解を得ている。重度化した場合は主治医の判断に基づき、本人・家族と協議し支援することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の協力をいただき救命講習を受ける予定である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し町内会の方々の協力をいただき、今年は大学生にも協力いただいた。災害時のために簡易暖房機具と非常食、水の備蓄をしている。	消防署の協力、地域住民、運営推進会議出席者の参加を得て、年2回(夜間想定1回)避難訓練を実施している。近くに大学の寮があり災害時の協力を依頼している。飲料水、食料、ストーブを備蓄している。	水害などの自然災害が増加していることから、自然災害(水害、地震、台風、大雪など)に対するマニュアルを作成し、避難訓練を実施することを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴介助や排せつ介助については配慮できている。難聴が強い方についても大きな声で話しますが、プライバシーを損ねないように心掛けている。	利用者となれあいにならないよう言葉かけに注意し、親しみをもって接し、尊厳や誇りを損ねないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく選択の場面づくりなどに心がけていて自己決定につながっていることは多くあると思う。なるべく職員側で決めてしまわないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合で待ってもらうなど、その時の状況では希望に沿えない場合もあるが、基本的には本人の希望を尊重するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で行えない方は、付添いや見守りで支援している。また、定期的に美容院へ行けるように支援している。		

グループホーム「里の家」2号館 いぶきユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々、一緒に台所に立つ機会を持っている。個々に合わせた器を使ったり、嗜好に合わせて食材を変えたり柔軟に対応している。また、誕生日などはおやつ時間にケーキをデコレーションして祝うなど楽しめるよう心掛けている。	利用者の希望を聞いて職員が交代で1週間分の献立を作り、利用者は能力に応じ職員と一緒に調理、茶碗洗い、下膳などを行っている。職員と一緒に食卓を囲み、畑で収穫した、旬のアスパラ、大根、枝豆などが食卓を飾り、話題にしながら食事を楽しんでいる。外食にも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一度に多くを飲食できない方などは一日に何度かに分け、水分についても少しづつ勧め一日1000cc以上を目安にして取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは職員の方から声をかけて行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、訴えの無い方については間隔を見て誘導し、トイレでの排泄が出来るよう支援している。	個々の排泄パターンを排泄チェックシートや表情、態度などから把握し、適時にさりげなくトイレに誘導して、排泄の自立に繋げている。3分の1の利用者は自立排泄ができ、現在おむつを利用している人はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や乳製品を出来る限り摂れるようにしているが、便秘してしまった場合は下剤を処方してもらい解消している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間を決めず希望を伺うようにしているが、夜間帯は手薄なため対応できないことがほとんど。間隔をみて週2回以上入浴できるよう勧めている。	利用者の希望を聞いて週2回以上の入浴を基本としている。入浴を拒否する場合は担当者、時間を変えるなどしている。入浴中は会話がはずみ、希望の入浴剤を使用して入浴が楽しくなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースで入床と起床をしていただいている。睡眠薬を使用している方はおらず、夜寝付けられないことがある方については本人のリズムを把握して昼夜逆転にならない範囲で昼寝したり、一日に必要な睡眠時間を確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全入居者の処方薬の内容はファイルに管理して職員がいつでも確認できるようしている。副作用などについても把握し症状の変化の確認に努めている。		

グループホーム「里の家」2号館 いびきユニット

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業を好まれる方はいつでも一緒に行える環境があり、一人ひとりに合わせて出来ることに参加しやすくやりがいにつながるよう心掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	朝の散歩や日中の日光浴など天気にあわせて戸外に出かけられるよう支援している。また、外出しやすい時期は外出・外食の機会を作っている。	朝の散歩を日課とし、冬季でも3日に1度は散歩している。ドライブを兼ねてチョウザメ見学、博物館、花見、紅葉狩り、外食に出かけて日常生活に潤いと変化を提供するよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段、お金は本人に持ってもらっていないので、希望が叶う支援には至っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を掛けることはないが、かかってきた電話には本人がでたり遠方の家族と話せる支援は行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音がする作業（掃除機など）はできる限り午前中に済ませ、夕方からはゆったり過ごせるよう心掛けている。陽射しによって部屋の温度が変わるので、換気や暖房などで調節し環境で混乱につながらないよう努めている。	左右同型のユニットは、利用者同士の交流があり、居間・食堂は一体的で明るく、娯楽談話スペースにはテレビ、ソファを置いてくゆったりとしている。季節に合わせて利用者と一緒に作った折り紙の作品などが飾られ、家庭的な雰囲気の中で、利用者は安心して生活している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係を職員が理解し自然に過ごしやすい場所が出来ている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んでいただくよう話をしている。趣味の小物や家族の写真など持ち込み、個々によって雰囲気が違う部屋となっている。	居室には使い慣れたタンス、食器戸棚、仏壇などを持ち込み、家族の写真、ぬいぐるみ、観葉植物、塗り絵などを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	迷うことがある時もあるが、居間では食卓やソファなどがあり、職員がさりげなく付き添うことにより大きな混乱はみられていない。		